

結婚の幸福度・関心度から見る

みちしるべ

# 未来への道標

～ 出会い・結婚・出産から見た若者の意識と行動～



未来へ

平成30年3月  
静岡県

## はじめに



若い世代が結婚して家庭を持つことに憧れを抱き、また、子どもを授かりたいと希望する県民の皆様が、その願いを叶えられるようにするためには、安心して子どもを産み育てられる環境を整えることが不可欠です。

静岡県では、「子育ては 命をつなぐ 幸せの 愛を育む 尊い仕事」の理念の下、社会全体で子どもと子育て家庭を応援することにより、子どもと子どもを育てる全ての方が、周囲から大切にされていると実感できる地域の実現を目指し、少子化対策への取組を推進しております。

平成 28 年 2 月には、市町別に把握可能な 30 種類の公的統計データを活用して、合計特殊出生率の地域分析を行った、「ふじのくに少子化突破戦略の羅針盤」を作成し、県内外から高い評価を頂きました。

このたび、新たな取組として、県内の若者の結婚や子育て等に関する意識を調査し、その意識を数値化することにより、合計特殊出生率等に影響を与える要因の「見える化」を行い、その結果を本冊子に取りまとめました。前述の「羅針盤」と合わせて、2 人から 3 人の子どもを授かりたいという若者の思いを応援する取組の参考としていただければ幸いです。

県では、今後とも、市町と連携し、出会い、結婚、出産、子育て期まで切れ目のない支援体制を構築し、安心して子どもを産み育てられる環境の整備を進めることにより、富国徳の「美しい“ふじのくに”」づくりに取り組んでまいりますので、皆様の御支援・御協力をお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

静岡県知事 川勝平太

# CONTENTS

結婚の幸福度・関心度から見る

## 未来への道標

～出会い・結婚・出産から見た若者の意識と行動～

### 第1章 事業の概要

1. 事業の背景 ..... 001
2. 事業の目的 ..... 002
3. 調査方法・回収結果 ..... 002
4. 分析の全体像 ..... 003

### 第2章 結婚の幸福度・関心度の分析

1. 結婚の幸福度の定義 ..... 005
2. 結婚の関心度・イメージ度の定義 ..... 005
3. 結婚の幸福度・関心度と合計特殊出生率との相関 ..... 006
4. 結婚の幸福度・関心度と相関のある要因 ..... 009
  - (1) 結婚の幸福度と相関のある要因 ..... 011
  - (2) 結婚の関心度と相関のある要因 ..... 012
  - (3) 回帰モデルの検証 ..... 013
  - (4) 結婚の幸福度・関心度と経済的要因との相関 ..... 014
5. 分析結果のまとめ ..... 015

### 第3章 市町別分析シート

1. 市町別分析シートについて ..... 017
2. 市町別分析シートの見方 ..... 018
3. 静岡県・市町別分析シート ..... 020

### 参考資料

1. 参考文献 ..... 093
2. 調査票 ..... 094
3. 単純集計表 ..... 106
4. 分析に使用した平均値データ ..... 160

# 第1章

# 事業の概要

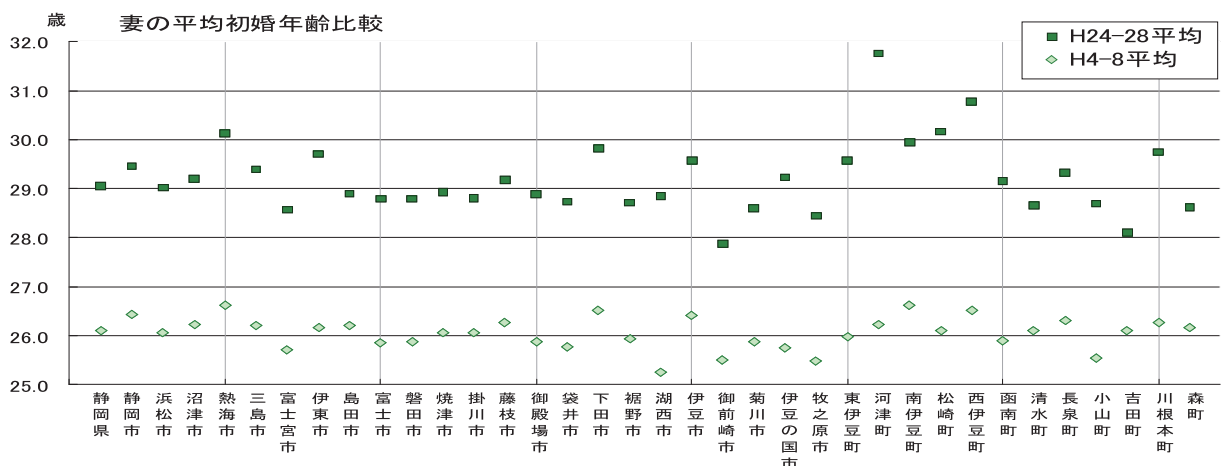
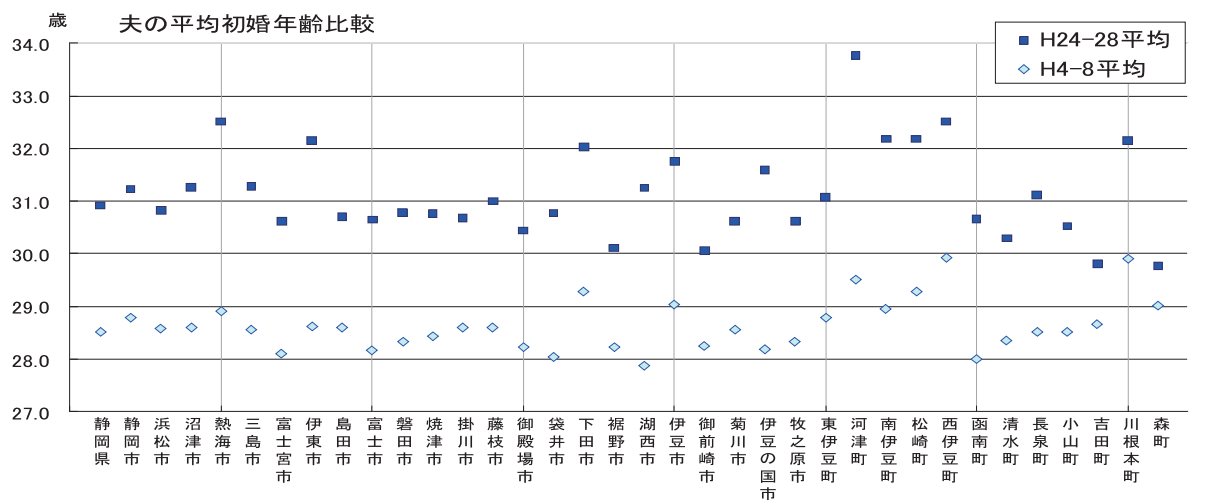
## 1. 事業の背景

静岡県が平成28年2月に作成した「ふじのくに少子化突破戦略の羅針盤」において、県内市町の合計特殊出生率の地域差の要因は、結婚要因（有配偶率）の影響が大きいことが示されたが、県内約1/3の市町では、社会経済的指標以外の「独自の地域特性」が合計特殊出生率に影響を与えていることが明らかになった。

また、下表のとおり、平成24年～28年の平均初婚年齢は、20年前と比べて全市町で男女とも上昇しており、若者の意識や行動の変化が晩婚化の要因の一つであると推定できる。

以上から今後の少子化対策を進めるに当たり、現在の若者が結婚に関してどのような意識を持っているかを調査することとした。

### ■ 県内市町別平均初婚年齢の推移（厚生労働省：「人口動態調査」調査票情報より独自集計）



## 2. 事業の目的

本分析では、若者の結婚等に対する意識（以下「結婚の幸福度・関心度」という。）を数値化することで、合計特殊出生率との相関を示すとともに、結婚の幸福度・関心度に影響を与える要因を把握・分析することを目的とする。

併せて、分析結果を県内市町別に「見える化」することにより、今後、県・市町等で施策に取り組む際の参考資料として活用する。

## 3. 調査方法・回収結果

静岡県に在住する 20 歳から 39 歳までの全ての男女を母集団として、県内全市町の選挙人名簿から各市町別に必要な標本数を層別抽出法により選んだ。

調査方法は、郵送調査法により行い、「調査票」及び「回収用の返信用封筒」を対象者あて郵送し、調査対象者本人に記入いただいた後、返信用封筒を用いて郵送にて調査票を回収した。

	内 容
調 査 対 象	静岡県に在住する 20 歳から 39 歳までの男女
抽 出 方 法	静岡県全域を母集団とし、選挙人名簿から層別抽出法による無作為抽出
抽 出 地 域	静岡県内の全市町
調 査 客 体 数	20,000 人
調 査 方 法	郵送調査法（郵送配布—郵送回収）
調 査 期 間	平成 29 年 10 月 2 日（月）～平成 29 年 10 月 20 日（金）
有 効 回 答 数	4,931 人
有 効 回 答 率	24.7%

※層別抽出法とは

調査で、母集団から標本を抽出するとき、調査事項に影響を持つと考えられる事柄によって母集団をいくつかの層（群）に分け、各層から適切な比率で標本を選出す方法。

## 4. 分析の全体像

### (1) 分析の対象数

本調査の有効回答数 4,931 人のうち、結婚の幸福度・関心度・イメージ度の分析において必要な項目が無回答であった者を除いた 4,071 人について分析した。

### (2) 分析を進めるに当たっての留意点

本分析は、対象者の属性を既婚者・未婚者に区分して行うが、分析を進めるにあたって、男女間に結婚観に差が見られるか否かを確認する必要がある。

そのため、結婚観に関する県民アンケートの設問である問 14「結婚についての考え方」から得られた回答選択肢の数値について、男女別に平均値を比較した。

男女の比較結果は表 1 のとおりであり、数値が 1.0 に近いほど賛成と考える度合が高く、値が 4.0 に近いほど反対と考える度合が高いことを示している。

分析の結果、男性の方が女性より「生涯独身よりは結婚したほうがよい」という考え方について肯定的な考えを持っていることが認められた。

また、男性の方が女性より、結婚は夫婦にとって一定の制限・義務が伴うものであるという「旧来の結婚観」に肯定的な考えを持っていることが認められた。

このことから、既婚者・未婚者の区分のほか、男女の区分による分析を行うこととした。

■表 1：結婚についての考え方の平均値

結婚についての考え方		男性	女性	男女の差 (男-女)
生涯独身よりは結婚したほうがよい		1.89	2.07	-0.18
旧 来 の 結 婚 観	結婚すれば多少の犠牲は当然	2.20	2.41	-0.20
	結婚したら子どもを持つべき	2.00	2.37	-0.37
	子どもが小さいときは夫婦どちらか仕事を持たず家にいることが望ましい	2.23	2.41	-0.18
	結婚して子どもを持ったら性格の不一致のみを理由に離婚すべきではない	1.92	2.35	-0.43

### (3) 分析作業の流れ

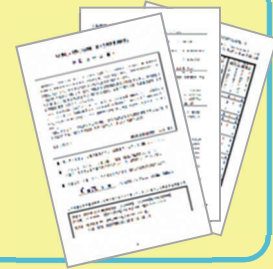
#### ア 若者の意識を調査

##### ① 少子化対策及び結婚等に関する県民意識調査の実施

静岡県在住の若者を対象とした県民意識調査の実施

##### ☞ 設問例

- 自身や生活のこと／結婚政策、子育て政策／結婚観／子ども／結婚の動機／結婚へのイメージ／異性との交際／結婚相手を決める時の重視事項 etc...



#### イ 若者の意識と合計特殊出生率との関係を分析

##### ① 結婚（生活）に対する若者の意識を数値化

意識調査の結果から、

- 既婚者の、現在の結婚生活に対する評価から《結婚の幸福度》
- 未婚者の、現在の結婚に対する意向から《結婚の関心度》を数値化。

##### ② 合計特殊出生率との関係を分析

若者の結婚に対する意識である「結婚の幸福度」「結婚の関心度」と、合計特殊出生率との相関関係を分析。

#### ウ 結婚の幸福度・関心度に影響を与えている要因を分析

##### ① 結婚の幸福度・関心度と関連する内的要因と外的要因のリストアップ

意識調査の結果の各項目を数値化

- 内的要因：結婚に対する考え方
- 外的要因：暮らし・生活に対する考え方

そのうえで、結婚の幸福度・関心度との相関関係を分析し、特に影響があり、重要と思われる要因をリストアップ。

##### ② 回帰モデルによる相関分析

リストアップされた要因を主成分分析により統合し、結婚の幸福度・関心度の回帰モデルを作成し、相関関係を分析。